

平成28年度各会計決算 に対する各会派等の

意見表明（要旨）

自民党豊島区議団

平成28年度一般会計歳入歳出決算及び3特別会計歳入歳出決算の認定に賛成する。様々な区民需要に応える決算だったと評価する。

款別に意見を述べる。総務費では、入札契約制度改革について、都の方針に盲従せず、区と企業の良好な関係と、区内企業の健全な成長のため継続的な改善を。福祉費では、子育て支援について、ゆりかごとしま事業、幼稚園への支援、ひとり親家庭への支援など妊娠時から子供の利益に最大限寄り添う支援を。都市整備費では、池袋副都心交通戦略について、池袋独自のルールを主体的に作り、歩行者優先のまちづくりを。教育費では、放課後の学校運営について、放課後子ども教室など様々な形で児童の学びをサポートするとともに、利用できる面積増や職員数の見直しなど環境面の充実を望む。

特別会計の後期高齢者医療事業会計については、軽減特例制度が見直される中、収納率向上努力の継続を。今後とも効果的でメリハリのある財政運営により、さらなる健全財政と持続発展都市づくりを切望する。

公明党

平成28年度一般会計決算及び3特別会計決算の認定に賛成する。総括として、持続発展都市実現に向けた、待機児童ゼロの達成等、積極的な施策を評価する。

【款別の主な意見と提案】

総務費

財務の透明性確保と行財政マネジメント向上。知的・精神障がい者雇用の拡充。審議会の女性委員比率向上。

福祉費・衛生費

社会貢献型後見人の養成。地域猫活動へのさらなる支援。ロタウイルスワクチン助成の早期実現。がん患者への就労支援。健康診断に胃内視鏡検診の導入。

環境清掃費・都市整備費

耐震シェルター・ベッド助成事業の助成要件緩和と受任払いへの変更。フードドライブ、フードレスキューの取組強化。新たな条例により私有地内の樹木やゴミの問題に効果的な対応を。

文化商工費・教育費

区内既存企業の経営改善対策の強化。障がい者スポーツ支援の強化。子ども図書館の設置。就学援助事業の拡充。

介護保険事業会計

総合事業における新たな介護の担い手の拡充。

日本共産党

16年度一般会計並びに3特別会計決算の認定に反対。第一に深刻な区民生活を支えるものになっていない。待機児童ゼロ宣言したが、隠れ待機児童は、10月現在283人で十分。子どもの医療費助成は中学生までのまま。生活保護は法外援護を削ったまま。公営住宅建設は拒否。特養ホームの待機者数は674名と増え続けている。救援センターは33カ所所以对人口収容人数は23区最低。

第二に区民不在、大企業や来街者のための街づくりや開発優先になっている。劇場ホールや新区民センターは、当初より100億強の費用増額。保健所移転は、公民連携の名で来街者のための街づくりに他ならない。

第三に将来に禍根を残す財政運営になっている。投資的経費の増加が見込まれるが、特養ホームや学校改築など、必要なものが具体化されていないのに、さらに、市街地再開発事業や西口公園など大型開発が目白押しとなっている。

保険料など大幅な区民の負担増を進めた国民健康保険会計、後期高齢者医療会計、サービスを改善した介護保険会計も認められない。

民主ネット

4会計決算認定に賛成。27年末歳入の旧庁舎跡地活用収入191億円は、定期借地契約76年分の前受金であるとの認識を忘れずに財政計画を立てるべきとの提言に対し、財務諸表で長期前受金とし一年分ずつ償却する会計処理がとられたことを評価する。人件費は、正規職員については抑制されているが、非正規が増えており事実上の人員・経費が見え難くなっている。現状分析と論点整理を。帰宅困難者対策は国庫・都財源を活用し民間との連携を強化し、都区財調算定の見直しを強く主張するべき。待機児童0達成までの努力を評価するが隠れ待機児童に着目し真の待機児童を無くす対策を。障害者差別解消法の啓発事業が認知度向上に繋がっていない。自治体においては義務であることを肝に銘じ取組を。学校トイレ改修が順調に進んでいるが災害時等の拠点となることに鑑みバリアフリー対応促進を。狭小住戸集合住宅税は狭小住戸の抑制効果と安定税収確保となっているが、ファミリィ向け住戸の供給は増えていない。税収を住宅政策へ活用する検討を。

都民ファーストの会としま

平成28年度一般会計決算、3特別会計決算に賛成する。情報公開・都民目線、ワイズペンディング（賢い支出）の視点から審査した。28年度決算は、少子高齢化への重点的に対応し、持続発展都市へ向けて施策を着実に推進し、成果を上げることができたものであると認識。

以下、款別に意見を述べる。総務費では、土地開発公社の意義と成果について、区民に対する説明責任を果たすように。衛生費では、救急告示病院の確保について、区が補助できるように、助成制度の新設を。都市整備費では、空き家の利活用の推進のため、関係者の協力を得ながら総合的に取り組んでいくこと、あらゆる観点からさらなる詳細な検討を進めることを望む。庁舎跡地周辺地域の一体的なエリアマネジメントについて、地域の声を伺い魅力あるまちづくりの推進を。教育費では、豊島の歴史と文化を継承していく学習の推進について、さらなる具体的な取組を。

3特別会計では、選択的介護について、都と連携し、区の実情を踏まえたモデル事業の実施を要望する。

刷新の会

平成28年一般会計及び3特別会計決算の認定について、審査により概ね了として、賛成する。区の財政は健全だと感じられるが、今後の巨額の投資事業のために、全庁的な費用削減、行財政改革に取り組むよう望む。

款別にみると、総務費では、選挙時の報酬や謝礼が高額なため、一般常識に照らし合わせた金額に。福祉費では、待機児童0宣言を行った本区では子どもを持つ親の期待が大きいため、個々の立場に寄り添った対応を。環境清掃費では、資源ゴミの持ち去りについて、関係部局と連携し、持ち出す人が経済的に自立できる体制づくりを。教育費では、教職員がモチベーション高く、児童・生徒を指導できるように、学校の環境整備を。また、部局横断的な提言として、セーフコミュニティとインターナショナルセーフスクールはWHOの直属の組織が認証するものでないことから、今後の取組を含めた費用対効果の検討を。また、合計特殊出生率が23区内最下位である本区だからこそ、子どもを産み、育てたいと思えるような環境づくりに努めることを望む。

無所属元気の会

今回の決算では、にぎわいの創出が区民サービス向上に結びついているのか、各事業において公民連携による財政負担の軽減・歳入増加の施策に結びついていくかという点を軸に審議にあたった。

過去何度も主張しているように、街が活気づいて人がたくさん訪れるようになったとしても、それが私たち区民の暮らし向上につながらなければ、意味がないからである。

個別論点では、2020年東京オリンピック・パラリンピックの貴重な機会に、豊島区の子どもたちが参加できるように、子どもボランティアの登録を積極的に働きかけること、個人で街の清掃・ゴミ拾いを行っている方を「としま環境美化大使」として表彰し、個人の頑張りを積極的に評価し、継続してもらえる制度の整備を、特に提言する。

街のにぎわいの創出による区民サービス向上に結び付けることができるよう、公民連携の創出・一体化のさらなる推進を強く要望し、平成28年度の一般会計・3特別会計決算内容について無所属元気の会は賛成する。